無断転載禁止

た。

—北鮮問題—

金鳳漢教授の来日は、中国代表の来日に勝るとも劣らない希望の一つであつた。金教授の来日については、開会二週間程前に出席通知がきて、執行部をあわてさした。たま〳〵電気学会が開かれていて北鮮代表の来日拒否が問題になり、日韓条約比準とからんで、これが「マスコミ」に取りあげられて、新聞の第一面に数日に亘り掲載されたり、ラジオ・テレビに数度に亘り学会がニュースとして報導されたことは宣伝効果百パーセントであつた。おそらくこの問題が無ければ、二三行でかたすみに報じられる位がおちであつたことを思えば、幸運という他ない。

日本政府も北鮮政府も医学という人道的見地よりも政治的見地を重視して、最終的には金鳳漢教授の来日を拒否したことになつたことは非常に残念なことであつた。

近い将来に、さらに金教授の来日を得るように努力して、針灸の新しい学問的発展をこの眼で確かめたいものである。

—学会の運営—

学会の運営については、一応手馴れているだけにスムースに運ばれたことは、関係者の御努力と熱意に感謝したい。

最も問題とされた通訳もはじめてのことと大分モタツイたがそれも馴れてくると割合に上手に行われた。三日間すべての同時通訳は、上野の東京文化会館開館以来、はじめてとのことで、通訳の苦労は大変なものだつたと考えられる。

学会の運営については、事前に用意した日本案を、前日十月十七日の午前十時より各国代表を招いて承認を求めたわけであるが、運営方法については、あまり異論がなかつたようである。各国とも、OK〳〵ウイ〳〵で話が決つた。問題は、経穴統一委員会、会議名、次期開催地等にあり、第一日十月十八日の午後の殆んどを、この問題で舞台裏でもみつづけたわけである。

特別講演、代表講演、一般講演に分けた型式は、一応成功したと見るべきで、学会のやま場を作つたようであるが、少し問題になつたのは、外国代表の講演を第三日目に集中したことで、むしろ、日本の講演の合間に外人講演を挾んだ方がよかつたのではないかと思われる。

毎度批判の対象になる実技公開については、今度も残念ながら整理不充分で、果して実技を充分見られたかどうか疑問である。もう少し何とか良い方法が無かつたのか、例えば八㎜の映画等により実技のコツを拡大映写するような方法をとれば、参加者全員に充分実技を納得せしめることができるのではないか、無論、映画撮影には相当の費用も要するが、名人の実技を将来に残すことなども考え、今後の実技公開はこのような方法を採用しては如何。

—経穴の国際的統一—

経穴の国際的統一案については、国内でも何かと議論されて問題になつたが、今学会の一つの主要議題として提出されたわけである。

いうまでもなく、経穴名、経穴部位などは各国でまち〳〵であり、これを何とか統一して、各国の研究発表が誤りなく伝えられる方法はないかということから経穴の番号づけを提案したわけである。

番号づけについては各国とも異論が無かつたようであるが。

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。
営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます

無断転載禁止

ところが番号の順序決定に至つてがぜんフランスより強い反対意見が出た。

フランス代表のいうのには、番号についてはフランスが最も早くから実施しているから経穴の番号はすべてこれまでのフランス式を採用すべきである、いまさら日本案を採用してはフランスは大変迷惑を蒙むる。第一に一番遅くから日本式の番号案を提出されてもおいそれと受け取るわけに行かない。というような主旨の反論をフランス語でまくし立てられたわけである。

またイギリス代表などは、経穴の位置から先に決定すべきで、位置についてはさらに研究の餘地が充分あるから、これから研究しましょう。と甚だ頼りない提案も出された。

また経絡についても、フランスでは心経からはじまるが、日本案では肺経からはじまつている。人間の基本は心臓であるから、心経から始めるのが正当であるなど珍論が続出してなか〳〵まとまりそうにない。さすがの藤田委員長もお手上げの形で、間中先生が最後に、今回に限り日本案を採用しましようということでお茶をにごしてこの案はお流れとなつた。

今後の問題として、やはり日本の学会に於いて経穴のしつかりした根拠を作り、日本の学会に関しては、このような経穴を基本としているという事を国際学会の度毎に強く主張してゆけば自然に経穴の統一が出来るとも考えられるが世界の現状より道遠しの感が深かつた。

—国際鍼灸学会の名称—

名前というものは、何でもないようで甚だやつかいなものだ。今回の学会名をいかようにするかということで、日本案としては「第一回国際鍼灸学会」というべきであると主張した。

フランスは「国際鍼灸学会」は已にヨーロッパに存在しこれまで十三回開催されている。過去において日本よりすでに、代表が参加しているのであるから今回の日本の国際鍼灸学会は、第十四回国際鍼灸学会とすべきであると、ヨーロッパの先取権を主張してゆづらなかつた。

しかし考えて見れば、日本と協議して決定した国際鍼灸学会は未だ一回も行われていないのだから、ヨーロッパで行われた過去の学会をそのまゝ認めるのはいかにも業腹である。

またイギリスいわく、アジアで行われたのだから今回はアジア国際鍼灸学会とすべきであると。これは先年、台湾で第一回と称するものが行われているので、もしアジア国際針灸学会とすれば第二回とならざるを得ない。この案も日本は受け入れることができない。

すつたもんだの末、それでは新しい名称として「国際針灸世界大会」としては如何という提案がフランスより出され、万場一致可決したが、さて此の度の日本で行われたものを第一回とするか、次に行われるものを第一回として今回は一応準備会として日本の名称をそのまゝ用いるかで、ガヤ〳〵ポヤ〳〵結局そのことは次会にもちこすことで終り。

—パリでまた会いましよう—

次期開催地については、原案として、各国代表から希望地を募つたところ、パリ、モスコー、テヘラン、ローマ、香港、メキシコ（ラテンアメリカ）バンコック等の希望が出され、日本としてはパリを強く希望、フランス代表は、香港を希望したが、

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。
営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます